

六月二十一日

十時大学。学部レクチャー準備。十時四〇分講義。十二時了。修士論文相談。十三時G A杉田氏来室。久し振りにおしゃべりを楽しんだ。杉田君も面白い事を考えているんだ。刺激的だった。十五時過ミセス取材。自由に勝手な事を話させてもらった。十六時了。第二厚生館に木本君の子供像を見にゆくつもり。

十七時過新宿。京王線稲田堤に向かう。私もデジタル・カメラに切り換えるかとボンヤリ考えている。G Aの杉田はチョッと宣教師ぽいところがあって、話している内に何となく教宣されてしまった。キャノンはどうやら八千ビットでニコンのは六千ビット。企業戦略を賭けて決めた事だろうが、消費電力は同じだと言う。ニコンは六千ビットで充分だという判断、キャノンは合理的と考えられる性能よりも、少し上乘せした方が販売戦略上有利だと判断したのだろう。プライスはまだ知らぬがSONY対SHARRPのように負け勝ちがはずれハッキリするのだろう。先端分野の市場競争の現場は、一つの決断が勝敗を決めかねぬ世界らしい。決断の連続が企業の個性を作るのか。十七時半星の子愛児園現場。十八時前厚生館に木本君の枯華微笑の像、見にゆく。玄関の良いところに置かれていた。理事長先生とはすれ違い。残念。世田谷村に戻り、メをとうに過ぎているエクスナレッジの原稿を書く。二十一時前修了。熊谷守一の住まい方、みたいな事を自由に書かせてもらった。研究室にFAXで送付。

六月二十二日

昨夜は熊谷守一に関してのいささかを書けたのが収穫であった。盟友佐藤健を失い、その空白を埋めるきっかけにもなるような気さえた。佐藤健は今思えば、その内面の全てをうかがい知る事は出来ぬが、良く病と闘い、元気に死んでいった。フト、思い立ち早朝熊谷に関して書いたものに、少々の付け加えをした。アレはアニメイズムの世界だ。九時二〇分世田谷村発京王線稲田堤へ。小雨降る。

十時前星の子愛児園現場。弥彦工務店と増設ブリッジの打合わせ。建築というのは実に色んな、涯てしない問題が起こるものだ。この愛児園も増改築を重ね、周囲の風景すらも変化が激しい。この建築もどんな風に大人になってくれるのかな。十一時発。十六時東京駅北口ドーム下で軽井沢のO氏と会う。史上空前と敢えて言うが超ローコスト住宅の施主である。若い時には平然と取り組んだが、今の私の年で超ローコストの住宅は引き受けない方が良くに決まっている。がしかし、建築のコストの諸問題に大矛盾があると気付いて、それを何かと実践的に解決する糸口を発見するのを研究主題の一つとしている私には避けられないのだ。社会的義理だ。しかし、敢えて火中に入るの感もないではない。小建築程エネルギーを消耗するし、考えなければならぬ事も多いから。O氏はそれを理解してくれるかも知れないが、どうか。O氏と沖縄料理を食べながら相談。スタッフ安藤同席、こういう仕事は本当に三〇代で対面したかったが、マ、しょうがない、巡り合わせだ。三〇代の安藤は空気抜けてるし、実に諸行無常である。グレル東京でビールを飲んで散会。二十時四〇分ごろ。二十一時十分過京王線新宿駅で烏山へ。O氏は今晩は昔棲み慣れた秩父に帰ると言っていた。秩父困民党的秩父である。住宅設計はもう止め

たい、止めたいと思いつながらも続けているのは、まだ見知らぬ膨大な未知の人間との遭遇の、その一瞬のスリルの価値にある。ボクサーで例えれば、まだグローブを交わしていない相手との遭遇である。人生は、実は退屈きわまるものである。何もしなくても誰とも出会うことなくとも生きていける。その退屈さに耐えられない人間が、時々、シヨックを求めるのだが、建築家にとって、住宅設計の依頼者という者はそういう者である。前向きなシヨックさえくれれば良い。何か、小さな刺激でも鍼治療のそれ位でも与えてくれればそれで良い。それ以上の事は何も求めはしない。私だって、住宅設計は設計料欲しさの、金の為にやっているのではない。偉そうに言うが、そんな時期は二〇年も前に終わっている。でも、住宅設計の依頼者は個人そのママが時に現れる。自治体や国や法人を背負っていない。それだけが魅力であり、又、それしかない。あと、幾つ位住宅を手掛けるのか、キッチンと計算した方が良いな。やればやる程理不尽な傷も負うし、要するに個人対個人なんだから、やりたくなければやらなければ良いのだから。二十二時十五分前、世田谷村に戻る。南の菜園から、玄関迄三〇歩。しかも、その小半分は我家の二階に浮いた床の下なんだから、寂しい限りだ。良く、マア、熊谷守一は五〇坪のの森で充足できたかと今更ながら恐れ入った。